

平成30年度 学校評価実施報告書

学校名 (京都市立久世中学校)

教育目標

意欲的に学び、自他を大切にして、未来を拓く生徒の育成。

1. 自ら学び考え行動する生徒 2. 目の前の人を大切にする生徒 3. 豊かな心で社会に貢献する生徒

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 来年度は「徹底する」ということに拘りたい。学校評価アンケートの「授業がよくわかる」と感じている生徒が約70%、「楽しく学校生活を送っている」と答えている生徒が約80%、学習確認プログラムや全国学力・学習状況調査で平均を上回る教科や学年が増えるなど、ここ数年学力向上の兆しがみえている。しかし、子どもたちに確かな学力を育成するための授業改善だという意識がまだ教職員の中に醸成されていない感が否めない。それぞれの取組の意義の確認を徹底して行い、生徒授業アンケートも活用しながら組織的に学力向上の取組を推進していく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○久世三校における小小連携を基盤とした小中一貫教育が着実に推進しているように思う。今後も、久世の子どもたちの学びと育ちのためにしっかり連携して取り組んでいきたい。 ○学力向上に向けた取組は、学力向上の兆しが見えるが、もう一つ伸ばし切れていない感がある。一つ一つの取組を徹底しながらわかりやすい授業を目指して、組織的な授業改善を推進していく。 ○自己肯定感を高めるため行っているピア・サポートによるさまざまな活動の意義を全教職員で再確認して、システムとして機能する方法を模索してほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	平成30年10月23日	共同機構久世学校運営協議会
最終評価	平成31年 2月27日	共同機構久世学校運営協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標

- 確かな学力の育成に向けた授業改善。
- 家庭学習時間の習慣化。
- 読書活動の習慣化。

具体的な取組

1. 確かな学力の育成に向けた授業改善
- ・ 毎時間、授業の目標を提示し、課題に応じたまとめと振り返りを行うことを徹底。
 - ・ 言語活動の充実と、「思考力・判断力・表現力」などの効果的な育成。
 - ・ すべての教職員による年1回以上の授業研究の実施。
 - ・ 小中合同教科主任会による学力分析と対策の検討とその徹底。
 - ・ 授業にリンクした家庭学習課題の設定。
 - ・ 学習確認プログラムの活用の徹底。

- ・久世三校合同研究発表会の実施。
- ・年2回の公開授業週間の実施。
- ・「久世スタンダード Ver. 2」（生徒版）の活用した学習規律の徹底。

2. 家庭学習の習慣化に向けて

- ・「久世三校版 家庭学習のてびき Ver. 2」の配布とその活用（生徒・保護者へ啓発）
- ・「家庭学習ノート」の活用。

3. 読書活動の習慣化に向けて

- ・朝読書の充実。
- ・学校図書館の利用啓発と、地域図書館との連携強化。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・学校評価アンケート
 - ①「中学校の授業は、よくわかりますか」（生徒）
 - ②「授業の最初に目標が示され最後に振り返る活動がありますか」（生徒）
 - ③「みんなに自分の思いや考えをわかりやすく伝えようとしていますか」（生徒）
 - ④「家庭で1時間以上学習していますか（学習塾・家庭教師など含む）」（生徒）
 - ⑤「学校以外でも読書をしていますか」（生徒）
- ・学習確認プログラムの結果。
- ・全国学力・学習状況調査の結果。

中間評価

各種指標結果

- ・学校評価アンケート

生徒…授業の理解度はあまり高いとは言えない。授業の最初と終わりに目標提示や振り返り活動がしっかりされているという自覚がない。家庭学習や「学校外の読書」はあまりできていない。自分の考えや思いをうまく伝えることができない。

保護者…家庭学習や読書を促すことはあまりできていない。

教職員…授業の最初と終わりに目標提示や振り返り活動を徹底してできていない。「朝読書」を促すことは定着してきているが、「学校外の読書」を促すことはあまりできていない。
- ・学習確認プログラム…各学年、概ね全市平均前後。
- ・全国学力・学習状況調査…国・数・理とも概ね全国平均をやや下回る。家庭学習時間も1時間以上勉強している生徒、家庭で「読書」をしている生徒は全国平均を下回る。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・授業の最初に目標提示ができるカードを各クラスに設置しているが、すべての教科でしっかり実施できていない現状が見られた。
- ・朝読書はかなり習慣化され定着しているといえるが、それ以外の読書についてはいまだ不十分である。
- ・家庭学習については、課題提供はしているが、自らが考えて学習に取り組むことは少ない。それが、学力調査や確認プログラムテストの結果にも反映していると思われる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・授業の改善としては、再度授業最初の目標の明確化と授業終わりの振り返りの徹底を教科会を通じて発信していきたい。
- ・読書については、図書委員会や図書館教育係、また図書館司書とも協力しながらさまざまな利用

	<p>方法を紹介し、読書を推進していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習については、週末課題だけでなく、コンスタントに継続してやり続けることでそれが結果に結び付けられる課題を設定するなどの工夫が必要と思われる。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート <ul style="list-style-type: none"> ①「中学校の授業は、よくわかりますか」(生徒) ②「授業の最初に目標が示され最後に振り返る活動がありますか」(生徒) ③「みんなに自分の思いや考えをわかりやすく伝えようとしていますか」(生徒) ④「家庭で1時間以上学習していますか(学習塾・家庭教師など含む)」(生徒) ⑤「学校以外でも読書をしていますか」(生徒) 学習確認プログラムの結果。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度、学習確認プログラムにおいて指数100を超える教科や学年が増え、全国学力・学習状況調査でも三教科で全国平均を約2ポイント上回っていたが、今年度は一昨年度までに戻った感がする。子どもたちの社会的背景などその要因をしっかりと分析し、学校体制で組織的に対策を実施してほしい。 家庭学習と読書活動推進を支援する取組を模索したい。

最終評価

自己評価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>生徒 …授業の理解度は1回目とあまり変わらなかった。授業での目標設定や振り返り活動は前期よりされているという意識を持っている。3年生は受験が近づくにつれ家庭学習の時間の向上が見られるが、1, 2年生は下降傾向にある。</p> <p>保護者…家庭学習への働きかけは少し上がっているが、読書を促すことはあまりできていない。</p> <p>教職員…授業の最初と終わりに目標提示や振り返り活動は1回目より意識してできていると思われる。家庭学習や朝読書については、3年生は受験もあり意識的に働きかけているが、全体としては下降がみられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習確認プログラム…各学年、概ね全市平均前後。
	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の理解度としては、目標設定と振り返りの徹底をすることと、理解の向上が必ずしもつながっているとは言えず、さらなる改善が必要と思われる。 朝読書については、かなり習慣化され定着が見られるが、自ら意識して選書しているというより、まだやらされている雰囲気があり、それが家庭での読書時間の未定着につながっていると思われる。 家庭学習については、今回も決して十分な結果とは言えなかった。習慣化に向けては、ある程度、教科から課題設定が必要。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善については、引続き授業の目標と振り返りを徹底し、何を学びたいのか、何を学ぶのかという意識を持たせた授業展開をすることで、学習への意欲向上につなげていきたい。 朝読書については、引続き委員会等の協力も得ながら継続的に読書の充実を推進していきたい。 家庭学習の課題設定は、次年度に向けて、「久世ノート」のラベルを制作し、これまで以上に有効的な家庭学習ノートの活用を模索していきたい。

	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体を通して、目標の達成状況としては満足できる結果ではなかったと思われる。ただ、達成に向けて少しずつ取り組んだことは、前進できたと評価できる。次年度に向けて、取組の改善でも明記したように、重点目標に対して、より具体的な取組を考え、学校全体で共通理解をして働きかけていくことが課題だと考える。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上の取組は学校にお任せしなければならないが、少し伸び悩んでいるように見える。引き続き物事がわかる喜びと学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを組織的に取り組んで欲しい。 家庭学習や読書活動の習慣化にはもう少し時間がかかるようだ。今後も1年間を見通した系統的な取組を推進してほしい。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の自己有用感を高め、自尊感情を育てる「ピア・サポート」事業の継続。 ○ 「おもてなしの心（目の前の人を大切にする精神）」の育成。 ○ 道徳教育の充実。
<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 体験的な活動を通してこども子どもたちの社会性を育む手段として、「ピア・サポート」活動に継続して取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> 他者との関わりの中で、参加するすべての生徒が<u>自己有用感を獲得</u>するよう、年齢の差、経験の差を利用したお世話活動を展開する。（中学生と園児など） そこで得た意欲や感情を定着させるため、十分な事前・事後学習の場を準備する。 校内に3年生をリーダーとした好ましい関係を構築するため、3年間を見通した取組の中で育てる。 「久世教育機関協働協議会」（保育園、小学校、中学校、児童館、図書館）が協働して、<u>あいさつ</u>と読書を中心に取り組み、育ちと学びの連続性を高める。 「あいさつ」を通して、<u>人と人とのつながりを大切にする</u>など、コミュニケーション能力を育成する。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート <ol style="list-style-type: none"> ⑥「学校に来るのが楽しいですか」（生徒） ⑦「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」（生徒） ⑧「学校や社会のルールを守り、マナーを心がけていますか」（生徒） ⑨「相手を思いやり、考えて行動していますか」（生徒） ⑬「クラスや学校の中で、人の役に立っていると感じていますか」（生徒） ⑭「自分には、よいところがあると思いますか」（生徒） ⑮「今の自分が好きですか」（生徒）

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート <ol style="list-style-type: none"> ⑥「学校に来るのが楽しいですか」 1年：5.8 2年：5.7 3年：5.7

	<p>⑦「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」1年：5.3 2年：5.2 3年：5.3</p> <p>⑧「学校や社会のルールを守り、マナーを心がけていますか」1年：5.6 2年：5.6 3年：5.7</p> <p>⑨「相手を思いやり、考えて行動していますか」1年：5.6 2年：5.5 3年：5.6</p> <p>⑬「クラスや学校の中で、人の役に立っていると感じていますか」1年：4 2年：3.9 3年：3.9</p> <p>⑭「自分には、よいところがあると思いますか」1年：4.2 2年：4.1 3年：4</p> <p>⑮「今の自分が好きですか」1年：4 2年：3.9 3年：3.9</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>「学校に来るのが楽しい」、「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしている」、「学校や社会のルールを守り、マナーを心掛けています」、「相手を思いやり、考えて行動している」は数値が高く、ピア・サポート活動などをおして、相手を思いやる気持ちと規範意識が芽生え、育成されていると考える。</p> <p>自己肯定感、自己有用感につながる、「人の役に立っている」、「自分によりよいところがあると思う」、「今の自分が好き」に関しては、十分に高いとは言えない。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>「ピア・サポート」活動を通じて、相手意識を高めるだけでなく、最後に自分をしっかりと振り返る機会を与えることで、「自分が役に立っている」という意識をもっと高めていき、自己肯定感と自己有用感を高める必要がある。</p>
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <p>・学校評価アンケート</p> <p>⑥「学校に来るのが楽しいですか」（生徒）</p> <p>⑦「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」（生徒）</p> <p>⑧「学校や社会のルールを守り、マナーを心がけていますか」（生徒）</p> <p>⑨「相手を思いやり、考えて行動していますか」（生徒）</p> <p>⑬「クラスや学校の中で、人の役に立っていると感じていますか」（生徒）</p> <p>⑭「自分には、よいところがあると思いますか」（生徒）</p> <p>⑮「今の自分が好きですか」（生徒）</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校時に笑顔であいさつをする子どもたちが増えてきたように感じる。今年度も落ち着いた学校生活が送れているようである。久世三校での「ピア・サポート」を引き続き継続してほしい。 ・地域のボランティア活動に参加する子どもが少ない気がする。子どもたちが気軽に参加できる体制を整えるなど地域の役割を支援したい。

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>⑥「学校に来るのが楽しいですか」1年：5.7(-0.1) 2年：5.3(-0.4) 3年：5.7(±0)</p> <p>⑦「自分から進んで、気持ちよくあいさつをしていますか」 1年：5.3(±0) 2年：4.9(-0.3) 3年：5.3(±0)</p> <p>⑧「学校や社会のルールを守り、マナーを心がけていますか」 1年：5.6(±0) 2年：5.3(-0.3) 3年：5.6(-1)</p> <p>⑨「相手を思いやり、考えて行動していますか」1年：5.5(-0.1) 2年：5.4(-0.1) 3年：5.5(-0.1)</p> <p>⑬「クラスや学校の中で、人の役に立っていると感じていますか」 1年：3.9(-0.1) 2年：3.8(-0.1) 3年：3.9(±0)</p>
--

自己評価	⑭「自分には、よいところがあると思いますか」 1年：4.2(±0) 2年：4(-0.1) 3年：4.2(+0.2) ⑮「今の自分が好きですか」 1年：4(±0) 2年：3.8(-0.1) 3年：4(+0.1)
	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・7月と比較して、大きな変化はない。「学校に来るのが楽しいですか」と「相手を思いやり、考えて行動していますか」の実現度が高い。学校という集団の中で相手意識を持ち、生活していると思われる。 ・「自ら進んで、気持ちよくあいさつしていますか」は3学年ともに数値が高い。ただ、校外活動などで、学校外で出た場合、積極的にあいさつする場面はそれほど見られないので、実践的に「あいさつ」を身につけているとは言えない。 ・「自己肯定感」と「自己有用感」はあまり変化ないが、まだ十分とはいえない。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・引続き、各学年、学校評価アンケートを分析し、教師側の取り組みを検討。ピア・サポート活動にて小中連携を行い「自己肯定感」と「自己有用感」を連携的に高める。 ・日常生活から、些細なことを見逃さずに生徒への「認める」声掛けを大切にし、生徒の自己肯定感と自己有用感を上げたい。 ・教師が自ら「あいさつ」や「目の前の人を大切にする精神」を見せることにより、生徒たちにとって良い手本となり、浸透させていきたい。 ・道徳教育の充実、「おもてなしの心」育成のための活動を充実させ、積極的に取り組む。
	<div>重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・おおむね達成。 ・教師の異動に伴い、「ピア・サポート」の意義を知らない先生が多く、次年度も増えることが予想される。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の公開授業参加など規範意識の育成に向け、地域の役割を模索していきたい。 ・子どもたちがトラブルに巻き込まれぬようSNSの使い方についての研修を、保護者、地域と連携しながら進めたい。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

<div>重点目標</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的生活習慣の確立。 ○ 保健教育の充実。 ○ 防災教育の充実。 ○ 組織的な部活動の運営。
<div>具体的な取組</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「久世教育機関協働協議会」において、「早寝・早起き・朝ごはん」及び「あいさつ」「家庭内のコミュニケーション」運動を展開することにより、<u>望ましい生活習慣</u>を自ら実践する力を育てる取組の充実を図る。 2. 1年生で「防煙教室」「ケータイ教室」、2年生「非行防止教室」、3年生「薬物乱用防止教室」と計画的に実施し、<u>正しい知識を知り、自分で正しい判断ができるようにする。</u> 3. 生徒会保健委員会の活動として姿勢キャンペーン（7月・11月）、換気キャンペーン（1月・2

月)を実施する。

4. 「久世ふれあいトーク」で健康や安全、また身近な話題や様々な問題について地域の方と話し合う。
5. スポーツや文化、科学など、生徒が自分の興味や関心に応じて自主的、自発的に活動する中で、それぞれの個性や能力を伸ばしたり、社会性や人間性を育む様々な経験を積んだり、生涯の友人を得たりする教育活動の一つとして、部活動を運営する。

(取組結果を検証する) 各種指標

1. 学校評価アンケート
 - ⑩「毎日、朝ごはんを食べていますか」(生徒)
 - ⑪「毎日、7時間以上睡眠時間をとっていますか」(生徒)
 - ⑫「将来の夢や目標をもっていますか」(生徒)
2. 薬物乱用防止、非行防止、防煙、SNSなど各種教室の開催。
3. 全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」
4. 部活動参加率

中間評価

各種指標結果

1. 学校評価アンケート
 - ⑩朝食の喫食(実現度)・・・1年生 6.0 2年生 6.1 3年生 6.1 保護者 6.1 教職員 4.8
 - ⑪7時間以上睡眠(実現度)・・・1年生 5.0 2年生 4.8 3年生 4.9 保護者 4.8 教職員 4.8
 - ⑫将来の夢や目標がある(実現度)・・・1年生 5.0 2年生 4.9 3年生 4.9 保護者 4.3 教職員 4.6
2. 5月16日に3年生「非行防止教室(薬物乱用防止)」, 7月4日に1年生「非行防止教室(いじめ・ケータイ)」, 7月5日に2年生「非行防止教室(いじめ・ケータイ)」を生徒指導課担当課長に講師をお願いして実施した。1年生「防煙教室」については、日程調整中である。
3. 全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」
 - 「朝食の喫食」・・・71.1%(全国 72.4%)
 - 「同じ時刻に就寝」・・・67.4%(全国 74.2%)
 - 「同じ時刻に起床」・・・94.0%(全国 90.3%)
 - 「将来の夢や目標を持っている」・・・71.1%(全国 72.4%)
4. 運動部参加率 68%, 文化部参加率 25%で約 93%の生徒が部活動に参加している。昨年度より 3% 増加している。

自己評価

分析(成果と課題)

- ・朝食の喫食率は約 94%と昨年より少し上昇している。また、毎日ほぼ決まった時間に就寝、起床している生徒は約 90%であり、基本的生活習慣を実践する力が少しずつ育まれている。
- ・薬物乱用防止、非行防止、防煙、SNSなどゲストティーチャーによる各種教室の開催が定着しつつあり、学校や家庭、地域での生活にもその効果が伺える。
- ・約 90%の生徒が部活動に参加しており、自主的、自発的な活動が見られるようになった。

分析を踏まえた取組の改善

- ・現状に満足することなく、久世教育機関協働協議会を連携の柱として、基本的生活習慣の確立に向け、実践する力を育てる取組を推進する。
- ・生涯学習の観点を取り入れ、子どもたちの行動に結びつく取組を、保護者、地域とともに推進する。
- ・部活動に参加している生徒にとって、達成感や満足感といった感動を集団で共有する場、生涯の友を得る場となるよう組織的な運営を推進する。

	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <div>1. 学校評価アンケート</div> <div>⑩「毎日、朝ごはんを食べていますか」(生徒)</div> <div>⑪「毎日、7時間以上睡眠時間をとっていますか」(生徒)</div> <div>⑫「将来の夢や目標をもっていますか」(生徒)</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣が定着している子どもたちは増加傾向であるが、まだまだ大人の都合で子どもたちの生活に影響を及ぼしている家庭も見受けられる。久世教育機関協働協議会(校区の保育園, 児童館, 小学校, 中学校, 図書館)で課題を共有し, 取組や対策, 支援などを継続して働きかけてほしい。 学校運営協議会として, 保護者啓発の講演会, 学習会を企画するなど支援を模索したい。

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <div>1. 学校評価アンケート</div> <div>⑩朝食の喫食(実現度)</div> <div>7月 1年生 6.0 2年生 6.1 3年生 6.1 保護者 6.1 教職員 4.8</div> <div>12月 1年生 6.1 2年生 5.9 3年生 6.2 保護者 6.0 教職員 4.8</div> <div>⑪7時間以上睡眠(実現度)</div> <div>7月 1年生 5.0 2年生 4.8 3年生 4.9 保護者 4.8 教職員 4.8</div> <div>12月 1年生 5.2 2年生 5.0 3年生 5.1 保護者 4.9 教職員 4.9</div> <div>⑫将来の夢や目標がある(実現度)</div> <div>7月 1年生 5.0 2年生 4.9 3年生 4.9 保護者 4.3 教職員 4.6</div> <div>12月 1年生 4.9 2年生 4.7 3年生 4.9 保護者 4.5 教職員 4.6</div> <div>2. 1年生対象の「防煙教室」は, 日程の都合で今年度も開催できなかった。</div> <div>3. 部活動については, 運動部参加率 68%, 文化部参加率 25%で昨年より少し多い約 93%の生徒が部活動に参加した。</div>
自己評価	<div>分析(成果と課題)</div> <ul style="list-style-type: none"> 朝食の喫食率について, 7月期と比べ1年生と3年生は0.1ポイント上昇しているが, 2年生は0.1ポイント減少している。 睡眠時間の確保について, 7月期と比べ各学年とも0.2ポイント上昇している。 「将来の夢や目標がある」について, 7月期に比べ3年生は変化ないが, 1年生は0.1ポイント, 2年生は0.2ポイント減少している。 部活動について, 年度当初より転部や退部した生徒もいるが, 自主性や協調性が育ちつつある部が増えてきた感がある。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> 朝食の喫食率や睡眠時間の確保, 部活動の参加率については, ここ数年あまり変化がなく, 基本的な生活習慣は定着しつつあると思われる。生徒会や久世PTA連合理事会とも連携しながら, 保護者対象の中学校給食試食説明会を開催するなど食育の大切さを発信していきたい。 「防煙教室」については, 今年度も実施できなかった。日程調整の難しさもあるが, 来年度以降の実施についてしっかり議論する必要がある。

	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基本的生活習慣の確立」については、ここ数年定着しつつあるが、余暇の時間の過ごし方などにはまだまだ課題が見られる。「保健教育の充実」とリンクさせながらその取組を進めたい。 ・今年度は、大阪北部地震や7月豪雨など大きな災害が発生した。これまで以上の「防災教育の充実」が重要である。 ・生徒の生きる力の育成や豊かな学校生活の実現のために多様な意義や効果をもたらす部活動の組織的な運営を推進する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、これまでに経験したことがない災害が多く発生した。子どもたちの命を守りきるという姿勢を大切にして、保護者、地域と協働、連携した防災教育の支援を早急に考えたい。 ・自然や人との関わりの中で、命の大切さを実感できる取組を支援していく。

（４）学校独自の取組

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小小連携を基盤とした小中一貫教育の推進。 ○ 生徒の自己有用感を高め、自尊感情を育てる「ピア・サポート」事業の継続。
<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小中合同教科主任会、小中合同授業研修会の充実。 2. 共同機構久世学校運営協議会（小中合同）の充実。 3. 学校運営協議会を支える学校支援推進委員会の充実。 4. 体験的な活動を通してこども子どもたちの社会性を育む手段として、「<u>ピア・サポート</u>」活動に継続して取り組む。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート <ul style="list-style-type: none"> ㊴「久世三校は、小中一貫教育に意欲的に取り組んでいますか」（保護者・教職員） ・小中合同教科主任会、小中合同授業研修会の実施。

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none">・学校評価アンケート 「小中一貫教育の推進（実現度）・・保護者 5.1 教職員 4.8」・始業式前の4月3日、8月22日に久世三校小中合同研修会を開催し、久世地域の課題について再確認し、共通理解をした。・5月14日、10月3日に久世三校小中合同教科主任会を行い、学力分析と対策について共通理解を図り、基本的な知識・技能の定着を図り、授業者は研修に参加し、授業改善することが大事であることを確認した。	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none">・今年度の「小中一貫教育構想図」を提示し、これまで取り組んできた小小連携を基盤とした小中一貫教育の意義や今後の取組に向けての方向性が共有できた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none">・「自分で考えて行動する子どもの育成」という小中一貫教育の目標を踏まえ、9年間を見通した

	<p>学習指導，生徒指導を推進する。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ②「久世三校は，小中一貫教育に意欲的に取り組んでいますか」(保護者・教職員) ・小中合同教科主任会，小中合同授業研修会の実施。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・「久世の子どもたちの 9 年間の学びと育ち」について，大藪小学校・久世西小学校・久世中学校の久世三校がしっかり連携をしている様子が伺われる。これからも，小小連携を基盤とした小中一貫教育を推進してほしい。</p>

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート 「小中一貫教育の推進（実現度）・保護者 5.1→5.2 教職員 5.2→5.2」 ・11 月 15 日に久世三校合同授業研修会を開催した。 ・11 月から小中教員交流（久世中→大藪小・久世西小，大藪小・久世西小→久世中）を行い，4 名の教諭が体験した。 ・1 月 18 日に大藪小学校で授業研修会，2 月 8 日に久世小学校で授業研修会を行い，小学校の授業を通して研修し，中学校との教科（国語・英語）での交流をはかった。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の結果と比べたら，教職員の小中一貫教育に対する意識が上がってきた。 ・英語科中心に 6 年生については授業を通じた交流を行っているために，中学へ入学する際，スムーズに中学校生活がスタートできる。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに久世三校すべての教職員が，学力分析・課題を明確にし，取組を進めることが大切である。 <p>重点目標の達成状況，次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に 3 回行っている久世三校合同研修会を充実したものにするため，久世地域の課題を分析し，実態を共有し，共通の目標に向けて取り組みを進めていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の中学校区の保護者や地域の方に伺っても，大藪小学校・久世西小学校・久世中学校の久世三校が連携をしている様子がよくわかる。学校運営協議会としても小小連携をベースにした小中一貫教育の推進をしっかり支援していきたい。